

第13回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

優秀賞

実践報告部門

金融教育との関連で実現する 「考え、議論する道徳」

—金融教育を多面的に広げる、道徳の大主題学習を通じて—

東京都・東大和市立第八小学校 指導教諭 野村 宏行

1. 主題設定の理由

金融教育と道徳教育は密接な関わりをもつ（資料1）ものの、道徳教育の要である道徳授業では、「道徳授業における金融教育≒お金の節度、節制」といった捉えが多い現状がある。学習指導要領には、小学校で「節度、節制」の第1学年および第2学年の内容に「物や金銭を大切にし、」¹⁾という言及がある。また、現代的な課題として小学校および中学校に「消費者教育」²⁾という言及がある。

これを受けて、道徳副読本におけるお金に関する内容の教材は、「節度、節制」が中心である（資料2）。もちろんこれは、学習指導要領を適切に実現しようとした結果である。

しかし一方、金融教育プログラム（金融広報中央委員会）を読むと、「A 生活設計・家計管理に関する分野」をカバーする「節度、節制」よりも「D キャリア教育に関する分野」をカバーする「希望と勇気、努力と強い意志」「個性の伸長」「規則の尊重」「勤労、公共の精神」などに道徳の記述が多く（資料3）、金融教育における道徳授業の役割が、さらに広い視野から期待されていることが分かる。

「節度、節制」は物やお金に関すること以外にも基本的な生活習慣など、幅広い内容をもち、これ以上にお金に関する内容を広げることは難しい。それよりも他の内容項目でお金などに関する教材を活用することで「道徳授業における金融教育≒節度、節制」のイメージを脱却し、道徳授業における金融教育を広げることが効果的だと考える。また、お金は子供にも大人にも切実な問題である。お金を関連させることで、様々な内容項目の道徳授業に対して、子供が一層切実感をもって学ぶことができるだろう。そこから、今求められる道徳授業の質的転換、「考え、議論する道徳」の実現も期待できる。これらの理由から、研究主題を設定した。

2. 研究の方法

小学校第6学年において、金融教育に関連する道徳授業を実践する。授業は「お金と人生はどのように関わっているのか」を大主題とした3回の複数時間で構成する（資料4）。

道徳授業における金融教育を多面的に広げるために、本実践では「節度、節制」だけでなく、「親切、思いやり」と「勤労、公共の精神」及び「希望と勇気、努力と強い意志」、「個性の伸長」の内容項目を、金融教育に関わる教材を活用して授業実践を行う。

また、金融教育の視点を加えることで、「考え、議論する道徳」の実現が図られるよう、授業構成を工夫する。はじめに子供の問題意識を醸成して学習テーマを設定し、3時間を通して追求し、最後に自他が納得できる答えを見出す、一連の問題解決的な学習を展開する。発問も子供が切実感をもって考え、話し合うことができるものに工夫する。

加えて、子供に意識調査を行い、その記述内容や変容などを考察する。

3. 授業の実際

(1) 第一時「三枚の銀貨」（資料5） B 親切、思いやり

①授業の流れ（資料6）

【3時間のテーマ設定】

「お金のイメージはどんなものか」と問うと、「大切なものだ」という印象が強かった。そこで、「お金は大切、必要」と言うが、それは自分たちの生き方にどう関わっているのだろうか、と問い、3時間を通して追求する「お金は、自分の人生にどのように関わっているのだろうか」という学習テーマを設定した。

【本時のテーマ設定と追求活動】

導入の後に教材「三枚の銀貨」を読み聞かせ、ベスに対しての思いを問うた後、「三人の贈り物のどれに賛成か」と問うた。ここでは「収入への心配」と「思いを伝えること」が対立的に表されていた。

そこで、本時のテーマでもあり、中心的な発問（追求）である「気持ちをお金で表すことはできるのだろうか」と、問いかけた。全体の1/4程度が「表すことができる」、3/4程度が「表すことはできない」と答えた。「できる」と主張する子供は「収入がないことはつらい。そんな思いはベスにはさせたくない」「相手のことを考えると、一番役に立つと思う」「気持ちがこもっているから大丈夫」などの考えだった。「できない」と主張する子供は「ベスにはうれしくないのではないか」「落ち込んでいるときはお金ではない」などの考えだった。これらは相反する考えだが、底に流れる思いは、「ベス

のことを一番に考える」ということで一致していることを、子供たちは話し合いの中で見出していた。

【解決】

話し合いを受けて「考えが深まったり変わったりしたことはあるか」と問うと、「お金をあげるのはいいこととは思わなかったけど、相手を思っているのなら、いいのかも知れない」「収入がなくなることは怖い。そこまで思いやる必要があると思った」など、話し合いを受けての自分なりの結論、納得解を見出していた。

②授業の考察

「気持ちをお金で表すこと」は、子供にとっても切実な問題で、自分のこだわりをもって考え、話し合っていた。その中から、「相手のことを思っている行動が大切だ」という声が多く上がった。お金を題材に考えることで、ねらいとする「親切、思いやり」について、より深く考えることができた。また、「気持ちをお金で表すこと」については、子供たちは様々な視点、角度、立ち位置から、多面的・多角的に考え、話し合っていた。お金の問題を加えることで、「考え、議論する道徳」の実現につながる一時間になったと考える。

(2) 第二時「続・だってほしいんだもん」A 節度、節制 (資料7)

①授業の流れ (資料8)

【本時のテーマ設定】

導入のやり取りの後、子供の意見を受けて『『お金を大切にする』とは、『無駄づかいをしない』ことだけでよいと思うか』と改めて問い、本時の学習テーマ「自分にとって正しい、大切な『お金や物の使い方』とは何だろう」を設定し、問題意識を学習に生かすようにした。

【追求】

初めに「お金や物を大切にすると花はどんな気持ちか」と問うと、子供からは「必要な物だけを買おう」「安くすませたいな」「作っている人のことを考えるなら、高くてもよいな」「このおこづかいは家族が働いたお金ののだから、家族を思って使おう」といった考えが表された。

その後、中心的な発問として「フェアトレードの商品を買う」「古い洋服を買い替える」「クーラーの買い替え」を、自分が大人なら行うと思うか、問いかけた。フェアトレードは4割程度、洋服は8割程度、クーラーは5割程度が、「自分が大人なら買う」という答えだった。その理由では「お金は自分のために使いたい」「作っている人のことも考えて使うべき」「必要かどうか大切だ」「新しい機械は環境にもよいから、環境のことも考えるとよい」などの考えが表された。それらを受けて「自分のために考えて使うことが大切だが、それは社会や環境ともつながっている。また、家族が働いて得たお金だと思えることも大切だ」という整理に落ち着いた。

【解決】

これを受けて、本時の解決として「自分で大切にしたいお金や物の使い方はどんなことか」と問うた。「人のためにお金を使うことは、募金もあると思います。今は家族からもらったお金だから大切に使いたいです。自分が大人になったら、人のために使いたと思うかも知れません」など、将来を見据えた考えも複数見られた。

②授業の考察

社会のためにお金を使うことは、第6学年の子供にとって新鮮な内容で、より切実感をもって話し合い、お金や物の使い方について多面的・多角的に考えることに役立った。また、4人グループでの話し合いと全体への発表も活発であり、子供たちはお金や物の使い方について考え、話し合うことを楽しんでいる様子だった。このような子供が考え、話したくなるような題材であることも、金融教育の魅力の一つだと考える。

(3) 第三時「カメラマンの選択」C 勤労、公共の精神 (資料9)

関連：A 希望と勇気、努力と強い意志、A 個性の伸長

①授業の流れ (資料10)

【本時のテーマ設定】

導入では、「収入とやりがいのどちらに、職業選択の重きを置くか」の問いに、1/3の子供が収入、2/3の子供がやりがいと答えた。そこから、「何のために働くのだろう」という学習テーマを設定した。

【追求】

番組を視聴した後に、収入と仕事の形態についての変化を押さえた後に、「自分がコジマくんなら、どちらを選ぶか」と問うた。28名の子供が「写真館で地元の人のために働きたい」を、6名の子供が「大きな会社で、自分の夢に挑戦したい」

を選んだ。そこでは、「地元の人への思い」「感謝」「やりがい」「人の思い」などと、「写真家としての自己実現」「夢」「チャンス」などが対立的に表され、職業観について多面的・多角的に考えを深めることができた。それらを受けて、仕事は人や社会のためにもあり、また、自分の夢や生活のためにもあることを整理した。

【解決】

それらを受けて「自分が職業に就くときに大切にしたいこと」と問うと、社会のためと自分の夢のためを、両立して働きたい、という考えが多く表された。また、3時間のまとめとして「お金は、自分の生き方にどのように関わっているのだろうか」と問うと、改めてお金と自分の生き方が深く関わっていることを、自分なりに捉えているようだった（資料11）。

②授業の考察

本時ではキャリア教育に視点を当てて、さらにそこに収入や仕事の形態などを考慮しながら、自分の職業観を見つめることを重視した。子供たちは、自分の夢を語りながら、ありたい自分や、お金とどう向き合っていくかについて、楽しく考え、話し合っているようだった。子供の思考の深まりや話し合いへの前向きさから、「考え、議論する道徳」に近づく実践だったと考える。子供にとって切実な夢、職業、お金などの問題を学習テーマとして設定したことが効果的だったと考える。

4. 授業の考察

(1) 意識調査からの分析

授業に際して4つの質問を行い、授業前と授業後でその変容を見た。なお、解答は「そう思う…4点」「わりとそう思う…3点」「わりとそう思わない…2点」「そう思わない…1点」として集計した。その結果を「そう思う」「わりとそう思う」を肯定的な捉え、「そう思わない」「わりとそう思わない」を否定的な捉えとして、全体の傾向をつかむと共に、平均値を表して、どのような変化があったのかをt検定（両側）を用いて分析した（資料12）。

質問1「自分の人生にとって、お金は大切だと思いますか」に関しては、解答の平均値が授業前は3.85、授業後は3.79と下がっていた。t検定では、有意差は見られなかった。4点満点の調査であるので、子供は「お金は大切である」という認識は十分にもっていると考えられる。肯定的な捉えをしている人数は変わらなかったものの、「そう思う」から「わりとそう思う」に変わった子供が2名いた。実践を通して、お金の大切さに関する見方が、少し変わったことが考察できる。

質問2「自分はお金を大切にしていますか」に関しては、解答の平均値が授業前は3.06、授業後は3.09に上がっていた。t検定では、有意差は見られなかった。肯定的な捉え・否定的な捉えをしている人数はほぼ変わらなかったものの、「わりとそう思う」から「そう思う」に変わった子供が2名いた。実践を通して、自分のお金の使い方を見つめ直し、さらに現状認識が深まったことが考察できる。

質問3「お金やお金の使い方について、学びたいと思いますか」に関しては、解答の平均値が授業前は2.94、授業後は3.38に上がっていた。t検定では、1%水準で有意差が認められた。否定的な捉えが11名から3名に減っていた。実践を通して、「お金についてもっと考え、知る必要がある」といった、自分への関わりの深さを実感した子供が多かったことが考察できる。

質問4「お金を得るために、努力をしようと思いますか」に関しては、解答の平均値が授業前は3.50、授業後は3.74に上がっていた。t検定では、有意傾向が認められた。「そう思う」と答えた子供が6名増えていることから、キャリア教育に関する学習の展開に、収入の視点をもたせたことが効果的だったと考える。

(2) 成果と課題

①成果

成果の第一として、子供の意識調査から、お金について学ぶ意欲が向上したこと、収入に対する努力の大切さの認識が向上したことが挙げられる。子供の心を育てる道徳授業において、金融教育に関する大主題の学習を行うことで、他教科等で行う金融教育の土台作りができることが考察された。

第二として、金融教育の視点を加えることで「考え、議論する道徳」の実現が図られたことである。3時間とも、子供たちは主体的に考え、こだわりを強くもって話し合っていた。学習カードからも、子供にとって重要な学びであったことがうかがえる。宿題の日記でも、買い物やお金の使い方についての感想が増えた。お金は私たちにとって切実で重要な問題であるだけに、道徳授業の問題解決的な学習に適していることが分かった。子供たちの心に響く授業が実践できたことは大きな成果だと考える。

第三として、「節度、節制」以外の内容項目でも金融教育と関連させることで、道徳授業が一層充実することが明らか

になったことがある。前述の通り、「道徳授業における金融教育≒節度、節制」のイメージを脱却し、子供の生き方に関わって、様々な内容項目で広く授業を展開していくことの重要性を確認することができた。

②課題

第一として、教材や内容の吟味がある。例えば第二時のフェアトレードは、小学校第6学年では、その理解だけでも難しい子供がいることが分かった。子供の発達の段階に合わせて、さらに授業内容を吟味していく必要がある。

第二は、家庭との連携の可能性である。小学校段階では家族の保護のもとにお金を使うため、家庭との連携を行うことで、さらに学習の切実感が増す可能性を、実践を通して感じた。様々な家庭の事情があることは十分に考慮しながら、家庭との連携も視野に入れた学習を展開することを、考えていく必要がある。

5. 実践を終えて

筆者は道徳授業に関して、他の3学級にも資料と指導計画を参考に渡している。今回の「お金に関する三時間」は、これまでで最も、他の教員からの評判がよかった。子供にとっても、教員にとっても、楽しい3時間であったと感じている。金融教育と道徳授業の相性の良さを実感する授業実践になったと考える。

「各教科等の特質を押さえた授業」と「金融教育」、どちらかに偏り過ぎることなく、この両者を実現する授業内容であることが、金融教育充実の鍵であると考え。

- 1) 文部科学省「小学校学習指導要領」平成20年3月告示 平成27年3月一部改正
- 2) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」平成27年7月
文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」平成27年7月

資料1 金融教育と道徳教育の関連

<p>【金融教育の目標】 自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う 金融広報中央委員会『金融教育プログラム[全面改訂版] 一社会の中で生きる力を育む授業とは一』平成28年2月</p>	<p>【道徳教育の目標】 自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする 文部科学省『小学校学習指導要領』平成27年3月一部改正</p>
--	---

資料2 道徳副読本における「物やお金」を題材とした教材の分析（平成28年度）

★…「節度、節制」の教材

無印…「節度、節制」以外の内容項目の教材

学年	A社	B社	C社	D社	E社
第1学年	物を大切にする話★			物を大切にする話★	物を大切にする話★
第2学年		物を大切にできない話★	本当に欲しい物を考える話★		
第3学年			物を大切にする話★		
第4学年		貨幣から家族の愛を感じる話	家族の仕事をお金で考える話		家族の仕事をお金で考える話
第5学年	プレゼントと請求書の話★			物を大切にする話★	物を大切にする話★
第6学年	本当に欲しい物を考える話★	食べ物大切に話す話★			

資料3 『金融教育プログラム』の「金融教育の目標と方法」における小学校・中学校の道徳に関連する記述の抽出

分野目標		小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
A 生活設計・家計管理に関する分野	ア 資金管理と意思決定	○ものやお金の価値を知り、大切に使う	○お金の適切な使い方を知ることを通じて節度ある生活の大切さに気付き、実践する	○お金の使い方について見直ししながら、自ら節度を守り節制に心掛ける	○時間やものを大切にすることなど、望ましい生活習慣を身に付ける
	エ 事故・災害・病気などへの備え	○身の回りの危険に気付き、安全に生活することの大切さを理解し、行動する			
C 消費生活・金融トラブル防止に関する分野	ア 自立した消費者	自立した消費者として行動するための基礎知識と態度を身に付ける			○環境や社会に配慮した消費生活ができる

分野目標		小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
D キャリア教育に関する分野	ア 働く意義と職業選択	○家の手伝いをする ことで役立つ喜びを 知る	○働くことの大切さを 知り、進んでみんな のために働く	○働くことの大切さと 金銭を得ることの苦 労が分かる	○勤労の意義と社会 における役割、およ び勤労の権利と義 務について理解す る
				○自分の長所・短所を 見つけ、将来就きた い職業について考 えてみる	○職場体験などを通じ て、勤労を実感し、 情報を収集し、就き たい職業について 考える
	イ 生きる意欲と活力	自らの夢を描き実現の 方法を考え、実現に向 けて努力する態度を身 に付ける		○自らの夢を描き、実 現に向けて努力す る態度を身に付け る	○将来の夢や希望を もち、その実現に向 け何が必要かを 知り、努力する態度 を身に付ける
	ウ 社会への感謝と貢献	社会との様々なつなが りを理解し、ルールを 守り、他人に感謝する 心を養う	○約束を守ることの大 切さに気付く	○生活を支えている 人々に尊敬と感謝 の気持ちをもつ ○きまりを守ること の大切さを理解し、 実践する	○法やきまりを守る意 識をもち、実践する
	よりよい社会を築くた めにみんなで協力する ことの意味を理解し、 何ができるかを考え実 行する態度を養う	○友だちと協力して活 動しようとする ○家の手伝いや係活 動を通じて自分の 役割を考える	○自分の仕事に責任 をもち、最後までや りとげる態度を養う	○みんなで協力して働 くことの大切さを理 解し、実践する ○地域や社会のため の活動(ボランティア 等)の存在や内容 を知り、または体験 することを通じてそ の意義に気付く	○社会貢献の様々な 在り方(勤労、ボラ ンティア、寄付等) について考え、実践 する態度を身に付け る

(出典)金融広報中央委員会『金融教育プログラム[全面改訂版] 一社会の中で生きる力を育む授業とは一』平成28年2月、道徳に関する項目のみ抜粋

資料4 指導計画書

本実践は金融教育と道徳授業の関連を工夫することで、今求められる「考え、議論する道徳」と金融教育の充実の二つを実現するための検証授業である。授業は3時間の主主題で構成した。3週間に渡り、お金と自分の生き方をつなげ、多面的・多角的に考えられるようにしている。また、授業は一連の問題解決的な学習として、主体的な学びが実現できるようにした。

1. 大主題名：「お金は、自分の生き方にどのように関わっているのだろうか」

2. 主題構成

時	内容	教材名	金融教育の視点	問題解決の過程
第一時	B 親切、思いやり	三枚の銀貨	D-ウ 社会への感謝と貢献	テーマ設定
第二時	A 節度、節制	続・だってほしいんだもん	A-ア 資金管理と意思決定	追求
第三時	C 勤労、公共の精神 関連：A 希望と勇気、努力 と強い意志、A 個性 の伸長	カメラマンの選択	D-ア 働く意義と職業選択 イ 生きる意欲と活力	解決

※金融教育の視点は、『金融教育プログラム』（金融広報中央委員会 平成28年）による。

(2) 第二時 「節約する」から「上手に使う」へ転換する「節度、節制」の授業

①主 題：自分にとって正しい使い方 A 節度、節制

②ねらい：お金や物を、自分なりの工夫をして大切にしようとする判断力を育てる。

③教 材：続・だってほしいんだもん（自作教材）

【概要】5年生で、物を大切にすることを学んだ和花だったが、フェアトレードや消費活動の意味を知り、自分の物やお金の使い方について、また迷ってしまう（資料7）。

④金融教育との関連

金融教育プログラム「A生活設計・家計管理に関する分野—資金管理と意思決定—限られた予算の下でよりよい生活を築く意義を理解し、実践する技能と態度を身に付ける」

⑤実践のポイント

本実践は「お金を大切に使う」という概念を「節約する」から「上手に使う」に転換する授業である。お金を節約することは重要なことであるが、小学校低学年からその学習は継続されている。お金の使い方について「節約する、無駄づかいしない」という価値もあるが、「社会のために、自分のために効果的にお金を使う」ことも、また別の一面の価値である。

本実践はお金の使い方を多面的・多角的に考えることで、自分にとっての消費活動の意義を見直す一時間である。「答えが一つでない問題」「異なった価値観が対立する問題」を話し合うことは、道徳授業が目指すひとつの授業の姿である。金融教育と関連させることで、教科化に適した新しい授業展開を開発する。

⑥授業の展開

	学習活動(○主な発問・予想される児童の考え)	◇指導の意図 ■金融教育の視点 ※「考え、議論する道徳」の工夫
導入	1. 問題意識を高める ○お金や物の使い方ですら失敗したことはあるか。 ・無駄づかいをした。 ・すぐになくしてしまった。	◇児童の問題意識を醸成し、本時の学習テーマを設定する。
本時のテーマ 自分にとって正しい、大切な「お金や物の使い方」とは何だろう		
展開	2. 教材を読み、話し合う ○物やお金を大切に使い続ける和花の心の中はどんなか。 ・愛着がある。 ・お金も減らなくて、よい。	◇物やお金を大切にしようとする価値理解を深める。
追求	◎様々なお金の使い方について、自分はどうか。 【フェアトレード】 ・作った人のためになるなら、使いたい。 ・自分のためにならないのはいやだ。 【洋服】 ・人から変に思われるかもしれないから、替える。 ・自分が気にしなければ平気だ。 【クーラー】 ・便利な新作を使いたい。 ・まだ使えるのにもったいない。	■新しい視点でお金やその使い方を見つめ、多面的・多角的にお金と自分の関わりについての考えを深める。 ※4人グループで話し合う。1番の子供が司会を行い、2番の子供がフェアトレード、3番の子供が洋服、4番の子供がクーラーについての話し合い内容を発表することで、表現の機会を確保し、他者理解を深める。
	○話し合っ、考えが変わったことや確かになったことはどんなことか。 ・お金の使い方を工夫すると、生活が楽しくなる。	◇話し合ったことをもとに、さらに自分を深く見つめる。
解決	●自分にとって正しい、大切な「お金や物の使い方」とはどんなものか。 ・親からもらったお金だから、みんなが納得する使い方をしたい。 ・本当に必要なものを考えたい。	■自分とお金、物の使い方を見つめて考え、現状認識を深めると共に、「正しい、大切なこと」を考え、本時の解決を見出す。
終末	3. 学習のまとめをする ○今日の学習で、自分を見つめて分かったことはどんなことか。	■自分の学習を振り返り、学びやその意義を確かめる。

⑦評価：お金や物の使い方について、様々な捉えがあることを意識しながら、自分のお金や物の使い方について振り返り、さらに発展させようとすることができたか。

(3) 第三時 自分の個性や夢と社会貢献を関連付けて、キャリア教育の側面を充実させた授業

①主 題：何のために働くのか C 勤労、公共の精神

関連：A 希望と勇気、努力と強い意志、A 個性の伸長

②ねらい：働くことの意義について考え、自分の希望や夢、個性と社会への貢献を関連付けながら、よりよい社会づくりに勤労を通して参画しようとする判断力を育てる。

③教 材：カメラマンの選択 (NHK エデュケーション ココロ部！)

【概要】町の写真館を営むコジマはその腕前を買われ、大手の写真関連の会社への転職を打診される。自分の夢が大きく膨らみ、喜ぶコジマであったが、町の人たちに愛される写真館での仕事のすばらしさを、改めて感じる出来事が起こる。自分の職業とその選択について、大きく悩みだしたコジマであった (資料9)。

④金融教育との関連

金融教育プログラム「D キャリア教育に関する分野—働く意義と職業選択—自分の職業選択について主体的に考える」及び「イ 生きる意欲と活力—自らの夢を描き実現の方法を考え、実現に向けて努力する態度を身に付ける」

⑤実践のポイント

自分の夢の実現と職業選択、社会や地域への貢献を関連付けて考えさせる授業である。第6学年は中学校への進学を控え、自分の進路にも目を向けていく節目となる。子供たちは夢の実現と社会への貢献で迷う主人公コジマを通して、仕事は自分のためだけでなく、社会とのつながりも深いことを実感するだろう。

また、本教材では収入の問題については触れていないが、第一時、第二時ともにお金や収入に関する学習をしていることから、収入の変化やリスクについても考えさせることが効果的だと考えた。そこで授業をする際に収入の変化やリスクにも触れることで、自己の生き方と職業選択を、より深く関連付けて考えられるようにした。

これらの工夫を通して、自分の生き方と職業、お金の問題などについて多面的・多角的に考えられるようにした。また、3時間に渡る問題解決的な学習の解決として、大主題「お金は、自分の生き方にどのように関わっているのだろうか」に対する納得解を見出す1時間とする。

⑥授業の展開

	学習活動(○主な発問・予想される児童の考え)	◇指導の意図 ■金融教育の視点 ※「考え、議論する道徳」の工夫
導 入	1. 問題意識を高める ○就くなら、どちらの仕事がよいか。 A: 収入は少ないが、やりがいのある仕事 B: 収入は多いが、やりがいのない仕事	◇児童の問題意識から、本時の学習テーマを設定する。
本時のテーマ		何のために働くのだろう
	2. 教材を視聴し、話し合う	
追 求	◎自分がコジマくんなら、どちらを選ぶか。また、それはどのような理由からか。 【写真館】 ・地域の人の笑顔が見たい。 ・自分の町の役に立ちたい。 ・安定した暮らしができそう。 【ファッションフォトカンパニー】 ・自分の夢を追いかけたい。 ・たくさんの人を、自分の写真で勇気付けられるかもしれない。 ・うまくいけば、もっと収入が増えるだろう。	■収入の安定や職業形態の視点を付け加え、職業選択への視野を広げる。 ◇自分の職業観を見つめ、表現をしようを通して、さらに考えを広げる。 ※多様な価値を含めて、多面的・多角的に考えることを大切にする。
展 開	○友達の考えから、学んだことはどんなことか。 ・仕事は自分のためだけでなく、社会のためにもあるんだ。 ・やっぱり夢を追いかけることが大切だ。	◇友達の考えを受け入れる姿勢を大切にして、自分の考えを一層広げる。
解 決	●自分が将来仕事に就くときには、どんなことを大切にしたいか。 ・自分のよさを生かして、みんなの役に立つ仕事がしたい。 ・安定した収入をもって、家族を安心させたい。	◇これまでの話合いから学んだことを生かして、職業選択を手掛かりに、自己の生き方についての考えを深める。

	学習活動(○主な発問・予想される児童の考え)	◇指導の意図 ■金融教育の視点 ※「考え、議論する道徳」の工夫
	3. 学習のまとめをする	
3時間の解決	お金は、自分の生き方にどのように関わっているのだろうか	
終末	・物を買うだけでなく、人の思いや願いが込められることもあるんだ。	■ 3時間の学習を振り返って、お金と自分の生き方の関係を見つめ、納得解を見出す。

⑦評価：職業選択を多面的・多角的に捉えながら考えることで、勤労の意義を始めとした諸価値について、自己を深く見つけ、考えることができたか。

資料5 第一時 教材「三枚の銀貨」

「だれか海に落ちたぞ!」「ハリスだ!早く助けろ!」ここは北海、船上には網を持つ漁師たちの姿。冬の漁場は恵みが多いが、波が高く、ときに危険も大きい。ハリスの体が、あれくう波間に消えた。そして、引き上げられたときハリスに息はなく、彼は帰らぬ人となっていた。最愛の妻、ベスを残して。

ここは漁師町のあるカフェ。ハリスの幼なじみ3人が集まって、ティーカップを片手ににやらか話をしている。「ハリスみたいな、あんないいやつが、先にゆくなんて……。」ハリスの漁師仲間でもあるボブが天をあおぐ。「残されたベスが、ふびんだわ……。」テーブルにほおづえをついて、なみだぐむジーナ。「そうだ、ベスのためにぼくたちで何かできないか。」パチンと手をたたいて、イスから立ち上がるサム。「そりゃいい考えだ。で、何をすればいいんだ。」サムを見上げるボブ。「そうだなあ。ベスをなぐさめるには、やっぱりこのくらいの花束かなあ。」

ボブを見ながら両うでを広げるサム。「わたしは、ものじゃなくて、気持ちが大事だと思うんだ……。いつもだれかがベスのところへ行って、話し相手になるっていうのは、どうかな。」ボブを見つめるジーナ。「おいらは、何かベスの生活の足しになるものがあると思うが……。たとえば、漁師仲間がとった魚を毎日1匹ずつベスに届けるとか……。」トント、カップをテーブルに置くボブ。3人の話し合いは結局つかず、家に帰って、それぞれ考えてくることになった。

ここはサムの家。「……ベスをなぐさめるには、やっぱりこのくらいの花束かなあ。」「花束をもらったとき、ベスは『ありがとう』って言うかもしれない。でも、花ばかり見ても、ベスの悲しみが消えるわけじゃない。花を見るたびに、ハリスのことを思い出して、ベスはつらい思いをするかもしれない。わたしだったら、何かくらしに役立つものをもらった方がうれしいわ。」と、サムの姉さん。

ここはジーナの家。「だからわたしは、いつもだれかがベスのところへ行って、話し相手になるっていうのが、いいんじゃないかと思うんだけど。父さん、どうかな。」「たしかにお前の、気持ちが大事だというのはわかるが、しょっちゅう、人に来られて話をされてもなあ。ベスだって、いつまでもハリスの死を悲しんでばかりいるわけにはいかないだろう。それより、ベスはこれからのことが不安なんじゃないか。」と、ジーナの父さん。

ここはボブの家。「やっぱりよ、おいらたちがとった魚を毎日1匹ずつベスに届けるっていうのがいいと思うのだけれど……。」「お前さんの、生活の足しになるもの、というのは、あたしも賛成だよ。でもねえ、いくら漁師の妻だからって、毎日、魚ばかりもらってもねえ。もっと、ベスが毎日の生活に困らないようになるものはないかねえ。」と、ボブのおかみさん。

そして、約束の日、いつものカフェに集まった3人。それぞれベスのためによく考えて持ちよったものを、ポケットから出して、同時にテーブルの上に置くことにした。チャリン、パチン、コトツ。すると、何とテーブルの上には、3枚の銀貨があらわれた。テーブルの銀貨を見てはっとし、そして、たがいの顔を見合わせる3人。「漁師仲間やみんなによびかけて、ベスのために1人1枚の銀貨を出してもらおうぜ。」ボブの提案にうなづくジーナとサム。「みんなも、よろこんで出すと思うわ。ベスのためにね。」鼻をすすりながらジーナ。そして、サムが立ち上がって高らかに言う。「天国のハリス、ぼくたちの気持ちを受け取ってくれ!」

(出典) 和井内良樹作「三枚の銀貨」 東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ 金融教育共同研究プロジェクト『考えてみよう これからのくらしとお金』平成23年4月1日

資料6 第一時 板書



資料7 第二時 教材「続・だってほしいんだもん」(自作教材)

和花は6年生になった。5年生のとき、物を大切にすることについて考えてから、自分も少し変わった気がする。えん筆や洋服など、できるだけ長持ちをするように使うように気を付けている。あれ以来、お金もあまり使わなくなったと思う。

ある秋の土曜日、和花は母といっしょに散歩に出かけた。横を歩く母の伸長に、自分も近づいてきていることに気が付いた。コスモスやヒガンバナ、秋の花が咲いている。

帰り道、母のなじみのカフェで紅茶を飲んだ。家やカフェでの母とのひとときは、和花にとっても大切な時間だ。このカフェは紅茶やコーヒーを飲むことができるだけでなく、雑貨やおかしなど、色々な物の売り場も大きい。家に帰る前に、二人で売り物を見て歩く。母が、一つのチョコレートを手に取った。値段を見ると、高い気がする。

「お母さん、このチョコレート高いんじゃない。コンビニにももっと安い物があるよ」

と和花。対して母は「フェアトレード」コーナーにあったこのチョコレートの説明を始めた。

「このチョコレートやコーヒー豆は、「フェアトレード」の製品なんだって。開発途上国の人たちが生産したものを、正しい値段で買うような仕組みなんだよ。」

「正しい値段って言っても、少しでも安い方がいいんじゃない？」

和花が反論すると、母も付け足す。

「その値段を安くするために、例えば小さな子供が働いたり、作っている人がいつまでたっても豊かになれなかったりするの。そういう人たちを守ることになるのよ。こういうお金の使い方、大切だと思うなあ。」

和花は考えてしまった。

「これは、「むだづかい」じゃないのかなあ・・・？」

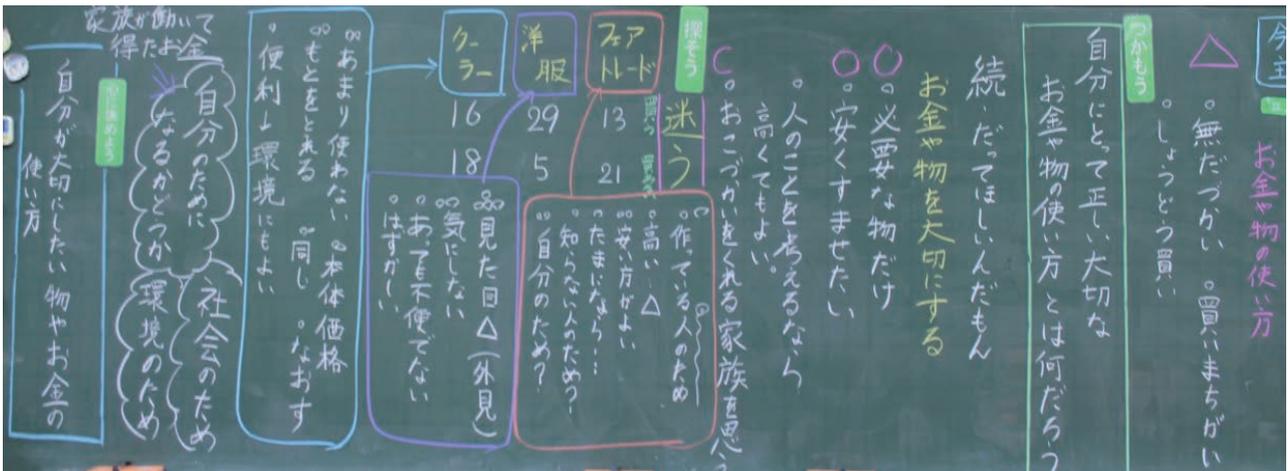
「お金の使い方って、おもしろいよね。例えば、古すぎる洋服を着ていると、その人の印象はよくないよね。クーラーも新しい物を買う方が、電気代が安かったりする。便利な物を買って快適に使う心のときめきもすてきじゃない？」

と母。自分が物を大切にしていることと母の言葉は、大きくちがっているような気がする。和花はまた、考えてしまった。

次の日、和花は中休みに学校の図書室に行った。「お金と社会」という本が目に入る。開いて読んでみると「私たちがお金を使って物を買うこと、これもりっぱは消費活動です。上手な消費活動をするのが大切です。」とあった。和花は、ますます考えてしまった。

その日の夜、いつものようにお風呂に入ってからのおんぴりと読書する和花。雑誌を開くと、楽しそうなグッズがたくさん並んでいる。和花は、6年目の使用になった筆箱を思い浮かべた。今はランドセルに入っている。自分の物、お金のこと、どんなことが自分にとって正しいのだろう。さらに考えがまとまらなくなってきた。

資料8 第二時 板書



資料9 第三時 教材「カメラマンの選択」

教材の概要

町の写真館を営むコジマはその腕前を買われ、大手の写真関連の会社への転職を打診される。自分の夢が大きく膨らみ、喜ぶコジマであったが、近所の幼稚園児カイトと母の言葉から、いかに自分の仕事がこの町で愛され、必要とされていかなを知らされる。

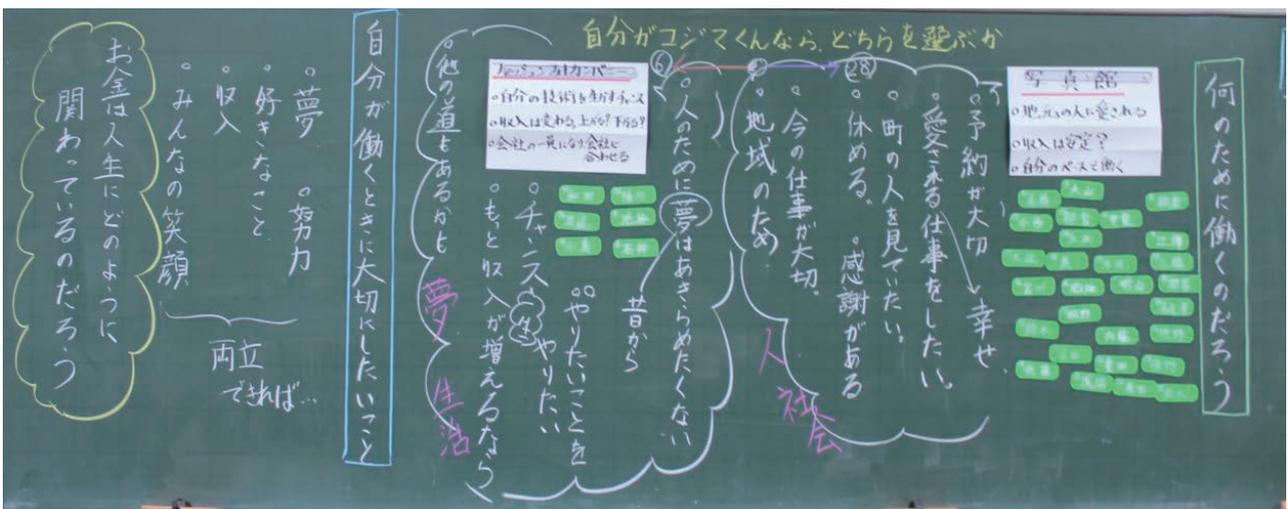
自分の夢を叶えるなら、大手の会社に転職したい。地元の人々の期待に応えるなら、今の仕事を続けたい。自分の職業とその選択について、大きく悩みだしたコジマであった。

以上が本教材の概要であるが、金融教育の視点を一層明確にするために、「大手の会社に入社すると競争が始まり、収入の変化は不透明である。また、仕事のペースは会社に合わせることになる」「写真館では収入はあまり変わらないことが予想される。自営業なので、会社に合わせる割合はそこまで高くない」、この2点を補足して考えさせた。

(出典)「カメラマンの選択」NHK エデュケーション ココロ部！

http://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?p=general&das_id=D0005130139_00000

資料10 第三時 板書



資料11 子供のワークシートの記述例

	第一時 「気持ちをお金で表すことはできるのだろうか」	第二時 「自分にとって正しい、大切な『お金の使い方』とは何だろう」	第三時 「何のために働くのだろう」	まとめ 「お金は、自分の生き方にどのように関わっているのだろうか」
子供A	できないと思う。お金をもらっても、ハリスのことは絶対に忘れないから。	本当に必要な物だけを買う。自分が長く使えるものを買う。親が働いたお金を考えて買う。	みんなのため、自分たちが生きていくため、もらって喜ぶ人のため、自分の思い出に残すためにも働きたい。	お金は一生懸命働かないともうけないということが分かったので、正しい使い方、正しい方法で使うことが大切だと思った。働かないと収入がなく生きていけないから、命のためにも働く。
子供B	私はできないと思います。できるかも知れないけど、逆に大切なお金をもらうとなると、申し訳ない気持ちになってしまう。	私は、5年生で習った時よりも、むだづかいが多い！という気持ちが強くなりました。むだづかいは気を付けます。	私はもちろん収入が安定した仕事がいいけれど、人が喜んでくれる仕事がいいなと思いました。喜んでくれると仕事をやったかいがあるからです。	私は、お金は大事だと言うことが改めて、すごく感じて、働くときはお金をたくさんもらえて、もうけるだけでなく、人を喜ばせる仕事に就きたいと思いました。
子供C	みんなで決めたことなら、何でもうれしいし、こんなに心配してくれているのに、まだ落ち込んでいたらみんなに迷惑だから、早く切りかえようと、自分ならそう思うと思う。	本当に使うものだけを買う。	私の夢は学校の先生かデザイナーか歌手の三つ。もっと大きくなって、本当にしたいものを選んで、できるように大学などに入りたい。	やりたいこと、ほしい物、何でもできる。でも中には、買えないものもある。亡くなったり、残ったり、人も物も少しずつ変わっていく。人と同じように、お金も大切に使いしていきたい。
子供D	確かにお金で買えないかも知れないけど、銀貨で気持ちを表すのは難しいと思います。反対。	最初は、クーラーが必要だと思ったけど、性能のことを聞いたら、いらなと思ったけど、環境に良いと聞いたら、買ってよかったと思いました。	やっっていて楽しい仕事だから、人に言われたことをやるのはつまらないから、コジマさんみたいに自営業をした方が楽しい。でも、本当になりたかった「夢」なら、人に言われた仕事をやるのでも別に良い。	お金は、手助けや協力にも使えるものだと思います。なぜなら、仕事はたまに、お金を出して働くこともあるからです。逆に、お金で気持ちを表すことは難しいと思います。お金はお金で買えないけど、心配しているからお金を渡すのは変だと思いました。
子供E	できる。花、魚、話の中だったら話だけ、それ以外だったら、一番役に立つお金がいい。	社会のことも考えるが、自分のことをまず考えてから使い方を考える。今度からは環境のことも考えて買いたい。	感謝や愛される仕事等と収入や夢などを両立させられる仕事をしたい。チャンスがあるときはたくさん迷いたい。	お金は人生に役立つ。だがその使い方はたくさんあると思う。お金だけで人生の全てを決めつけることはよくないと思うが、やはりしっかりと分けて考えた方がよいと思う。お金と聞くと便利、人の使い方個性が出ると思うようになった。
子供F	できない。お金も、花や魚をあげるのといっしょで、お金で気持ちを変えることは難しいと思う。	みんなの意見を聞いて、三つとも買います。クーラーは環境に優しいのがいいと思いました。洋服は外見が大事だと思いました。フェアドレードは、子供たちががんばっていたりするから買ってあげます。	私なら、写真館で働き続けます。会社は夢だけど、町の人と楽しく話しながら続けて、子供たちの成長を見守れたりして、楽しいと思います。夢の会社がもしかしたら、きつい仕事をさせられるかもしれないので、怖いもあります。私は、仕事と自分の夢を両立したいです。	お金は、人生に苦しいこともさせるし、楽しいこともさせるものだと思います。人生は、お金だけじゃ生きていけないと思います。
子供G	みんな、よく話し合っただけ、助けたいという優しい気持ちを表すことはできないと思う。悲しみは消えない。	今日、お金は必要な物以外は買わないけど、週に何回かは、社会のことを考えて買うようにしたいです。	自分の夢に向かうのはいいことだけど、人のことも考えて、仕事を選ぶのが大切だと思う。収入よりも、なった後の他の人の気持ちの方が大切。	私は、お金は人生の全てに関わっていて、とても大切な物だから、三時間勉強する前より大切にしています。でも仕事の収入のお金は優先され、人の夢や仕事を少し後悔する原因の一つだと思いました。生きるために、お金はなければならぬと思います。

資料 12 意識調査の分析 (34名)

質問	1 自分の人生にとって、お金は大切だと思いますか		2 自分はお金を大切にしていると思いますか		3 お金やお金の使い方について、学びたいと思いますか		4 お金を得るために、努力をしようと思いますか	
	授業前	授業後	授業前	授業後	授業前	授業後	授業前	授業後
そう思う	30	28	12	15	10	18	21	27
わりとそう思う	3	5	14	9	13	13	10	6
わりとそう思わない	1	1	6	8	10	1	2	0
そう思わない	0	0	2	2	1	2	1	1
平均値	3.85	3.79	3.06	3.09	2.94	3.38	3.5	3.74
差(授業後－授業前)	-0.06		0.03		0.44		0.24	
t検定(両側)	有意差なし		有意差なし		有意差が認められる (p<0.01)		有意傾向が認められる (0.05<p<0.10)	

